

## 高齢者施設に簡易コンビニ ホーム、買い物を娯楽に

2022/10/12 5:00 | 日本経済新聞 電子版



入所者にとって、自分で選んで買い物することも娯楽のひとつだ（大阪府箕面市のロイヤルホーム箕面）＝一部画像処理しています

企業のオフィスで食品・飲料の簡易ショップを運営するホーム（大阪市）は、老人ホームなど高齢者施設に出店を始めた。健康に配慮した商品をそろえるとともに、立ち歩きが困難な入所者が利用しやすいよう、陳列棚にキャスターを付けて移動できるようにする。施設内の娯楽イベントも支援する。3年以内に180施設の開拓を目指す。

同社は「ちいさなコンビニ」という名称で、大阪府内750カ所のオフィスに簡易ショップを設けているが、新型コロナウイルスの影響で売上高は4分の3に減っている。一方で、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、老人ホームなど高齢者施設では、入所者の外出や家族との面会が難しくなっていることに着目。「施設コンビニ」と名付けて、特化した新サービスを始めた。

基本的な仕組みはオフィス向けと同じで、ホームが陳列棚、冷蔵ケースなどの什器（じゅうき）を無償で施設に提供し、軽食、菓子、飲料を毎週補充する。自動販売機のような設置費はかからない。商品の代金は在庫がなくなった分を施設から徴収する。入所者向けの価格は施設が自由に設定する。





代金は入所者が自分でスタッフに渡すか、スタッフが集計して家族に請求する（大阪市のウェルライフ上新庄）

ショップは無人運営が基本で、入所者が自分でお金を施設のスタッフに渡すか、スタッフが入所者ごとの利用を集計して、まとめて家族に請求する。電子マネーにも対応する。高齢者施設の入所者は1カ所あたり30人ほどと少ないため、運営コストをできるだけ抑えるのがポイントという。

オフィス向けと異なるのは、まず品ぞろえと陳列什器。糖分などの成分に配慮するとともに、軟らかく喉に詰まらせにくいものを選ぶ。施設の意向を個別に反映させるほか、孫にプレゼントするための菓子セットなど入居者の要望にも応える。什器は高さを低くして車いすでも手に取りやすくし、寝たきりの場合は部屋まで移動させる。

2つ目として、面会に行けない家族が入所者に差し入れするための注文サイトも用意する。これまではスタッフがかわりにスーパーなどで購入することも多く、大きな負担になっていた。

3つ目のポイントは、入所者が買い物を楽しめるようにすること。施設内は娯楽に乏しいため、祭りなどのイベントを施設に提案するとともに、菓子釣りやかき氷機などの道具を有料で貸し出す。

昨年秋にホームの施設コンビニを導入したサ高住のロイヤルホーム箕面（大阪府箕面市）は週に1回、買い物イベントを開いている。入所者の多くは外出が難しく、その日を楽しみにしているという。一與（いちくみ）健太・施設長は「自分で考えて商品を選ぶ行為は、もの忘れの予防にもなる」と話す。

高齢者施設は入所者の獲得競争が激しくなっており、ホームでは利便性向上や娯楽につながる新サービスのニーズは大きいとみている。すでにロイヤルホームのほかエーススタイル（大阪市）など約20カ所が導入しており、それぞれの要望を聞きながらメニューを拡充していく考えだ。

(高橋圭介)



本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.